

つながり

今日もJALグループの翼をお選びいただき、ありがとうございます。

今年も残すところあとわずか。冬の澄んだ空気の中、一年の終わりと始まりに想いをめぐらせる季節となりました。

先日、1980年代に『JALスカラシッププログラム』に参加された卒業生の方々とお会いしました。このプログラムは、アジア・オセアニアの学生たちを日本に招き、約3週間、その年のテーマにあわせた研修や文化交流を通じて相互理解を深めていく取り組みです。1975年、「若い世代に等身大の日本を知つてもらいたい」との願いで始まったこのプログラムは、半世紀にわたり20以上の国や地域から約1700名の学生を迎えてきました。卒業生の皆さん、それぞれの国や地域で閣僚や外交官、ジャーナリストなど幅広い分野で活躍されており、今年プログラム50周年の記念で日本に集い、当社を訪ねてくださいました。

シンガポール出身のある卒業生の方は、「当時の体験や仲間との出会いが、自分の中から偏見をなくしてくれた。それが私の人生に今でも影響し続けている」と語ってくれました。その言葉に感銘を受ける一方で、ふと、バー

チャルやSNSで世界の距離が縮まつた今、あらためてこのプログラムの意義を自問自答しました。そんな中、うれしいことに、今年の学生たちは「みんなと過ごす中で、自分の進む道が決まった」「一人では途方に暮れるような地球環境に対しても、私たちがつながれば大きなことができる」と、力強く語ってくれたのです。

同じ景色を分かち合い、寝食を共にして語り合う中で芽生えるつながりや相互理解は、いつの時代も人生に彩りを与える、世界をよりよくしていく力を秘めていることを、卒業生や学生の皆さんのが表情や会話から感じるとができました。JALグループはこれからも、そうしたリアルな交流こそ未来を拓く原動力になると信じ、より多くの人々の、豊かなつながりを育む翼となつてまいります。若い世代が世界で得た経験は、日本と世界の未来を明るく照らしてみると確信しています。

年の瀬を迎え、皆さまにおかれましてもかけがえのない「つながり」に恵まれ、温かい新年をお迎えになられることを心よりお祈り申し上げます。新たな年も社員一同、安全運航と心を込めたサービスでお客さまをお待ちしております。

イラスト／山本祐布子



たびとりどり

代表取締役社長 グループCEO

鳥取三津子



TOTTORI Mitsuko

とつとり みつこ／1964年、福岡県久留米市生まれ。1985年4月入社（客室乗務職）。2019年に客室安全推進部部長、2020年に執行役員 客室本部長、2022年に常務執行役員 客室本部長、2023年に専務執行役員 カスタマー・エクスペリエンス本部長に就任。同年6月に代表取締役専務執行役員、グループCCOに就任し、翌2024年4月から現職。趣味は音楽鑑賞と大河ドラマを見ること。